

科目名		救急救命処置概論Ⅰ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	(2単位)	配当学年・時期	救急救命士科1年		必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕								
救急救命士が現場で行う観察および現場活動の基本を理解できる。 緊急度・重症度の判断力を身につける。								
〔授業全体の内容の概要〕								
生理学的機能 意識障害の評価法 観察 測定方法の実際 症状別に疾患を説明～特徴主たる観察ポイント緊急処置等								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕								
問診、正確なバイタルサインの測定、全身所見の観察から生理学的評価、解剖学的評価に基づき、的確な判断ができる。 傷病者の緊急度、重症度を判断し、適切な医療機関選定ができる。 これらを踏まえ、今後のシミュレーション実習に活かす事ができる。								
回数	講義内容							
1	観察総論(観察の目的と意義、バイタルサイン)							
2	観察総論(問診、視診、聴診、触診、打診)							
3	全身状態の観察(外見の観察、気道、呼吸、循環、意識状態に関する観察)							
4	〃							
5	局所の観察(観察結果の表現、皮膚、頭部・顔面・頸部、胸部・背部の観察)							
6	〃							
7	局所の観察(腹部、鼠径部・会陰部・骨盤、四肢、手指・足趾・爪の観察、各種病態のアルゴリズム)							
8	〃							
9	神経所見の観察(運動機能、感覚、髄膜刺激症状、失語症と構音障害)							
10	〃							
11	神経所見の観察(脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法)							
12	〃							
13	〃							
14	緊急度・重症度判断(緊急度と重症度、判断の基準)							
15	〃							
	定期筆記試験							

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
救急救命士標準テキスト改訂第11版		へるす出版

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

終講時試験。履修規定に準じる。